様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 7 日現在

機関番号：12603
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：21310157
研究課題名（和文）現代東アラブ地域の政治主体に関する包括的研究：
非公的政治空間における営為を中心に
研究課題名（英文）Comprehensive Study on Political Actors in Contemporary Arab East

研究代表者
青山　弘之（AOYAMA HIROYUKI）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
研究者番号：60450516

研究成果の概要（和文）：
本研究は、東アラブ地域各国の法制度ないしは主権国家としての領域を超越して展開する「非公的」政治空間に着目し、そこで繰り広げられる政治主体に関する情報を収集し、ホームページなどを通じて継続的に公開した。また収集した情報をもとに、「５．主な発表論文等」で列記した論文・論考を発表し、ムハーバラート、レジスタンス、シャッビーハ、官制NPOなどが同地域の政治において決定的な役割を担っていることを論証した。

研究成果の概要（英文）：
This research project aimed at reveal the “informal” political arena that spreads out beyond the institutions and boundaries of the Arab East states. According to this purpose, the project members collected and published the information about the political actors in the “informal” arena. In addition, the project members published research articles mentioned below, which show the decisive roles of the “informal” actor such as the Mukhabarat (intelligence agencies), Muqawama (resistance organizations), Shabbiha (pro-government mafia) and pro-government NPO.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2011 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
年度			
総　計	9,300,000	2,790,000	12,090,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：西アジア・中央アジア

１．研究開始当初の背景

中東地域、とりわけ東アラブ地域は近年、未曾有の政治変動を経験してきた。とりわけ米国が主導する「対テロ戦争」の失敗の結果、イラク、レバノン、パレスチナでは政治的安定が失われ、前二者においては事実上の内戦状態に陥ったとさえ指摘される。またシリア政府、レバノンのヒズブッラー、パレスチナのハマースは、「対テロ戦争」の標的とされる一方で、一貫してこれに抗する強硬姿勢を示してきたことで、結果的に域内でのプレゼンスを高めることになった。「対テロ戦争」後の地域秩序を特徴づけるこうした状況は地域研究や比較政治学などにおいてその精

査が強く求められている。

中東・アラブ地域の政治に関する近年の研究では、二つの意味において国民国家の枠組みを前提とする政治空間を設定し、その範囲内での政治変動や政治的営為の解明をめざすアプローチが主流である。すなわち、第 1 に国境線によって閉じられ、そして第 2 に当該国家の正統性に担保された、自己完結的で公的な政治空間が設定され、分析されてきた。Ghalyūn [2003]、Rahbek ed. [2006]などにおける民主化論や、Brownlee [2007]、Pratt [2007]、Schlumberger ed. [2007]といった権威主義研究がその代表である。これらの研究は、政治体制・制度の変化の有無やその内容、そして特定の政治体制・制度のもとでその権能や行動が規定される政治機関（国会、内閣など）や政治主体（政党など）を主要な研究対象としてきた。しかし、東アラブ地域の政治を把握するには、こうした対象だけでなく、国家の法的・制度的枠組みや国境を越えて展開する非公的な政治空間における営為に着目する必要がある。なぜなら同地域において、こうした営為こそが政策決定・遂行において決定的や役割を担っているからである。

非公的な政治空間においては、レジスタンス組織・民兵、軍・治安組織、政府において責任ある地位に就いていないにもかかわらず、政策決定において重要な役割を果たしている政権中枢に近い私人などが主たる政治主体として活動している。ヒズブッラーのレバノン・イスラーム抵抗、イラクのムクタダー・サドル派のマフディー軍、シリアのムハーバラートがその典型である。これらの政治主体の出自や動静はこれまでにも Perthes ed. [2004]、Batatu [1999]、青山・末近 [2007][近刊]などにおいて詳細に記述されてきた。だがこれらの研究においては、非公的な政治空間での営為を叙述することに重きが置かれ、その重要性が何に起因するのかという点についての解明が不充分であった。

こうした点を踏まえ、本研究は、東アラブ地域において決定的な役割を持つ非公的な政治空間での政治的営為に着目することで、「国民国家の枠組み」を前提とした従来の研究が網羅しきれなかった同地域の政治の全貌を捉え、その仕組みを解明することを目指した。

（参考文献）

青山弘之・末近浩太 [2007] 『現代レヴァント諸国の政治構造とその相関関係（調査研究報告書）』日本貿易振興機構アジア経済研究所。

――― [2009] 『現代シリア・レバノンの政治構造』アジア経済研究所叢書、岩波書店。

Batatu, Hanna [1999] *Syria's Peasantry, the Descendants of Its Lesser Rural Notables, and Their Politics*. Princeton: Princeton University Press.

Brownlee, Jason [2007] *Authoritarianism in an Age of Democratization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Ghalyūn, Burhān [2003] *al-Ikhtiyār al-Dīmuqrātī fī Sūrīya*［シリアにおける民主的選択］. Damascus: Bitrā li-l-Nashr wa al-Tawzī'.

Perthes, Volker, ed. [2004] *Arab Elites: Negotiating the Politics of Change*. London: Lynne Rienner Publishers.

Pratt, Nicola Christine [2007] *Democracy and Authoritarianism in the Arab World*. Boulder: Lynne Rienner Publishers.

Rahbek, Birgitte, ed. [2006] *Democratisation in the Middle East: Dilemmas and Perspectives*. Arhus: Aarhus University Press.

Schlumberger, Oliber, ed. [2007] *Debating Arab Authoritarianism*. Stanford: Stanford University Press.

２．研究の目的

上記の研究目標を達成するため、本研究は以下三つの課題を具体的に設定しその分析を進める。

第 1 に、東アラブ地域諸国において非公的な政治空間はなぜかくも大きな影響力を有しているのか、という課題である。この課題は、非公的な政治空間に重要性を付与する同地域の政治構造の特性を明らかにすることを意味すると同時に、そうした政治構造の確立の背景にある歴史的経験、社会的特性、政治文化などを把握することにもつながる。

第 2 に、非公的な政治空間を主たる活動の場とする政治主体はいかにして公的な政治空間に「寄生」しているのか、という課題である。非公的な政治空間における政治主体は、公的な制度な機関や制度に依存することで（国内外で）正統性を得ようとする一方で、そこでの法的・制度的規制を免れるため、非公的であり続け、またそうすることで公的な政治空間をコントロールする力を確保しようとする。本研究では非公的な政治空間における政治主体のこうした特殊なありようを、既存の国家枠組みや政治体制・制度の限界を念頭に置きつつ精査する。

第 3 に、公的な政治空間における政治的営為は非公的な政治空間のなかでいかに「諜報活動化」、「工作活動化」させられているのか、という課題である。非公的な政治空間における営為が政治において決定的な役割を果たす状況下では、公的な政治空間における営為

はそれ自体の法的・制度的な役割とは別の目的で利用されることが多い。政治的営為のこうした二元性を具体的に分析することで、政治主体間の関係性をより綿密に探ることが可能となる。

本研究の最大の特色は、非公的な政治空間の仕組みを明らかにすることで、従来の研究において分析対象から排除される傾向にあった政治的部面を網羅し、東アラブ地域の政治を捉え直そうとする点である。地域研究や比較政治学においては、国民国家を前提として形作られる政治体制・制度、そしてそこでの営為が主たる分析対象とされてきた。これに対して、本研究のアプローチ方法は、東アラブ地域の政治の動態を実態に即したかたちで把握するためにもっとも必要とされており、その成果は、アカデミアのみならず、中東地域におけるガバナンス構築や安全保障をめぐる社会の要請にも応え得るものである。また本研究のアプローチは、国民国家の枠組みに収まりきらない政治主体を「テロリスト」などと断じることで不当に評価しがちな今日の国際政治に対して批判的視座を打ち出すことにもつながるものである。

３．研究の方法

「研究目的」において明示した研究課題を進めるため、本研究では、具体的な分析対象時期および対象国を 2000 年以降のシリア、レバノンとした。3 年間の研究期間のうち、初年度（平成 21 年度）は、現地研究機関・研究者との協力関係の構築・深化と多角的な資料・情報収集に重点を置き、2 年度以降（平成 22、23 年度）は、現地研究機関・研究者との協力関係を駆使した情報の検証・分析に重点を置いた。

資料・情報収集、検証・分析作業は分担制とし、シリアの政治主体は青山（研究代表者）が、レバノンの政治主体は末近（研究分担者）が担当した。

資料・情報収集に関しては、現地の研究機関・研究者との協力関係を通じた情報交換と現地調査の実施に重点を置いた。また国内においても、財団法人中東調査会の髙岡豊研究院、日本貿易振興機構アジア経済研究所の高橋理枝氏、立命館アジア太平洋大学の吉川卓郎助教、九州大学の山尾大講師らの協力のもと、資料・情報収集の拡充に務めた。一方、収集した資料・情報の検証・分析作業に関しては、各年度に 2～3 回、研究会合を開き、研究代表者および研究分担者の研究進捗状況の報告を行うとともに、報告内容に関する議論を重ねた。

４．研究成果

各年度の成果は以下の通り。

平成 21 年度は主に以下四つの活動を行った。

⑴研究会合 2 回：2009 年 8 月（ダマスカス）と 2010 年 3 月（東京）で開催し、研究代表者・研究分担者の研究進捗状況報告、収集資料・データの解析結果検証などを行った。

⑵現地調査 3 回：2009 年 8 月に研究代表者がシリアを、同月に研究分担者がレバノンとシリアを、2010 年 2～3 月に研究協力者がレバノンとシリアを訪問し、現地の研究者・有識者との意見交換および関連資料・データの収集を行った。なお 8 月には、現地の研究者・有識者を交えたかたちで第 1 回の研究会合を開催し、意見を交換した。

⑶資料・データ収集およびその解析：シリア、レバノンの公的・非公的な政治主体の営為に関する資料・データを現地調査とインターネット等を通じた日々の情報収集活動を通じて収集し、解析した。

⑷成果普及：本研究の活動と成果の宣伝を目的としてホームページ「現代東アラブ地域の政治主体に関する包括的研究――非公的政治空間における営為を中心に――」を立ち上げた。また「５．主な発表論文等」に列記する論文・論考を随時発表した。

平成 22 年度は主に以下四つの活動を行った。

⑴研究会合 3 回：2010 年 5 月（東京）、11 月（東京）、2011 年 2 月（京都）で開催し、研究代表者・研究分担者の研究進捗状況報告、収集資料・データの解析結果検証などを行った。

⑵現地調査 3 回：2009 年 5、7 月に 3 名の研究協力者がレバノン、シリア、スペインを、10 月に研究代表者がシリアを訪問し、現地の研究者・有識者との意見交換および関連資料・データの収集を行った。

⑶資料・データ収集およびその解析：シリア、レバノンの公的・非公的な政治主体の営為に関する資料・データを現地調査とインターネット等を通じた日々の情報収集活動を通じて収集・解析した。

⑷成果普及：本研究の研究成果をホームページにアップロードし、成果普及に努めた。また「５．主な発表論文等」に列記する論文・論考を随時発表した。

平成 23 年度は、2011 年 1 月にチュニジアでの政治変動を発端とする「アラブの春」がアラブ世界を席巻し、その影響が東アラブ地域諸国にも波及し、これまでとは異なる新たな政治主体が公的、非公的な政治空間での活動を活発させたことを踏まえ、同地域、とりわけシリアに波及した「アラブの春」が東アラブ地域の政治、とりわけ同地域の「非公的」な政治主体の営為にいかなる影響を及ぼしたのかを解明するための研究を進めた。具体的には、シリア情勢をめぐり錯綜する情報の

収集・整理と、ウェブサイト「シリア・アラブの春（シリア革命 2011）顛末記」を通じた情報公開を重点的に進めた。

なおこの重点作業に加えて、過去 2 年間と同様、以下のような活動を行った。

(1)研究会合 2 回：2011 年 7 月（東京）と 2012 年 2 月（京都）において研究会合を開き、研究代表者・研究分担者、そして研究協力者間で研究進捗状況報告、収集資料・データの解析結果検証などを行った。

(2)現地調査 3 回：2011 年 10、11 月に 2 名の研究協力者がレバノン、英国を訪問し、現地の研究者・有識者との意見交換および関連資料・データの収集を行った。

(3)資料・データ収集およびその解析。

(4)ホームページの拡充および論文・論考の公刊を通じた成果普及。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 41 件）

①青山弘之「シリアの NGO：権威主義のための市民社会建設に向けた試み」『国際情勢紀要』第 82 号、2012 年、pp. 183-202（査読無）。

② SUECHIKA Kota, “Undemocratic Lebanon?: The Power-sharing Arrangements after The 2005 Independence intifada.” *Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities*, No. 4, 2012 （査読無）.

③青山弘之「アラブ諸国の民衆デモはシリアに波及するのか？」『現代思想　総特集 アラブ革命：チュニジア・エジプトから世界へ』(4 月臨時増刊) 第 39 巻第 4 号、2011 年、pp. 200-205（査読無）。

④青山弘之「「革命」をハイジャックしたのは誰か」酒井啓子編『＜アラブ大変動＞を読む：民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会、2011 年、183-194（査読無）。

⑤青山弘之「シリア：権威主義体制と国際政治に翻弄される「革命」」『岩波世界』第 819 号、2011 年、pp. 235-242（査読無）。

⑥青山弘之「シリアにおけるクルド問題と「アラブの春」」『中東研究』第 512 号 2011 年、pp. 43-52（査読無）。

⑦青山弘之「シリアへの政変波及がこれほどまでに遅れたのはなぜか」酒井啓子編『＜アラブ大変動＞を読む：民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会、2011 年、pp. 105-118（査読無）。

⑧青山弘之「レバノン国民の政治的認知地図：2010 年 5～6 月実施の全国世論調査結果をもとに」『国際情勢紀要』第 81 号、2011 年、pp. 291-305（査読無）。

⑨青山弘之「レバノン・ハリーリー内閣が瓦解：自決を妨げる宗派主義制度」『季刊アラブ』、2011 年、pp. 18-19（査読無）。

⑩末近浩太「『テロ組織』が政党になるとき：第二共和制の成立と『ヒズブッラーのレバノン化』」『立命館国際研究』第 24 巻第 1 号 2011 年、pp. 67-100（査読無）。

⑪SUECHIKA Kota, “Arab Nationalism Twisted?: The Syrian Ba‘th Regime’s Strategies for Nation/State-building.” Yusuke Murakami, Hiroyuki Yamamoto and Hiromi Komori (eds.), *Enduring States: In the Face of Challenges from Within and Without*. Kyoto: Kyoto University Press, 2011, pp. 84-98（査読有）。

⑫青山弘之「パクス・シリアーナへのさらなる挑戦（特集　アサド王朝の野望）」『季刊アラブ』第 133 号、2010 年、pp. 2-4（査読無）。

⑬末近浩太「巨星墜つ、ファドルッラー師逝去」『季刊アラブ』第 134 号、2010 年、pp. 26-27（査読無）。

⑭末近浩太「抵抗と革命をむすぶもの（2）：イスラーム思想史のなかのレバノン・ヒズブッラー」『立命館国際研究』第 22 巻第 3 号、2010 年、pp. 93-131（査読無）。

⑮青山弘之「「合意の必要がないことを合意する」レバノン」『季刊アラブ』第 130 号、2009 年、pp. 20-21（査読無）。

⑯末近浩太「抵抗と革命をむすぶもの（1）：レバノン・ヒズブッラーの誕生（1982～85 年）」『立命館国際研究』第 22 巻第 2 号、2009 年、pp. 101-136（査読無）。

〔学会発表〕（計 5 件）

①末近浩太「中東のエネルギー政治と市民社会：2011 年『アラブの春』への一視座」立教大学法学部シンポジウム「原発・エネルギー政治と市民社会：日本・ドイツ・中東の選択」、2011 年 11 月 27 日、立教大学。

②末近浩太「東アラブ地域のイスラーム主義運動にとっての 10 年」（パネリスト）WIAS-TIAS-KIAS 共催シンポジウム「10 年目の 9.11：国際社会とイスラーム世界はどう変わったか」、2011 年 9 月 11 日、早稲田大学。

③ SUECHIKA Kota, “If Not Authoritarianism nor Democracy, then What?: Lebanese Power-sharing Arrangements after the 2005 Independence intifada.” IAS 3rd International Conference, “New Horizons in Islamic Area Studies: Continuity, Contestations and the

Future”、2010 年 12 月 19 日、京都国際会議場(京都)。

④ SUECHIKA Kota, “Changing and Unchanging Face of Post-Syria Lebanese Politics: Power-sharing Arrangements, National Integration, and International Relation.” World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES)、2010 年 7 月 21 日、Universitat Autònoma de Barcelona（スペイン）。

⑤ SUECHIKA Kota, “ Redefining Resistance: Hizballah’s Public Services and ‘Mujtama‘ al-Muqawama’.” IAS Second International Conference “New Horizons in Islamic Area Studies: Identities, Coexistence and Globalization,” 2009 年 12 月 11～12 日、カイロ・マリオットホテル（エジプト）。

〔その他〕

ホームページ等

http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/aljabal/biladalsham.htm（現代東アラブ地域の政治主体に関する包括的研究:非公的政治空間における営為を中心に）

http://www.ac.auone-net.jp/~alsham/（シリア・アラブの春（シリア革命 2011）顛末記）

http://twitter.com/#!/SyriaArabSpring（シリア・アラブの春（シリア革命 2011）顛末記 twitter 版）

http://www.facebook.com/pages/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%96%E3%81%AE%E6%98%A5%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2%E9%9D%A9%E5%91%BD2011%E9%A1%9B%E6%9C%AB%E8%A8%98/191443360921829（シリア・アラブの春（シリア革命 2011）顛末記 facebook 版）

６．研究組織

(1)研究代表者

青山　弘之（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

研究者番号：60450516

(2)研究分担者

末近　浩太（立命館大学国際関係学部准教授）

研究者番号：70434701